

# 認知症になって暮らしてゆくこと

## 環境と認知症

認知症ケア

環境

人間関係

香川県・高松市

デイサービス・<sup>こうりえん</sup> 逅里苑デイサービスセンター

管理栄養士・吉岡 <sup>よしおか</sup> のりこ 典子

桜井 夕紀

松木 香代子

kourien@syurikai.com

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要 10p

当事業所はデイサービスセンターの他、特別養護老人ホームやショートステイ、ヘルパーステーションを併設し、香川県の屋島のふもとに位置し、眼下には檀ノ浦が広がっている。

### <取り組んだ課題>

これまで認知症のケアに携わっているなかで、認知症の発症時期が同じであっても、人により病状の進行状態が異なることを認めている。この原因のひとつとして、それまで暮らしてきた人間関係を維持しているか否かということが深く関係していることが考えられる。このような背景から、我々は、その人らしい生活を継続するために、どのようなケアを提供することが認知症による症状悪化の軽減につながるかを発症予後の経過等から検討した。

### <具体的な取り組み>

○森 千代氏（仮名）、女性  
現病歴：若年性アルツハイマー型認知症  
既往歴：パニック障害、子宮筋腫（切除）  
・平成18年3月からデイサービスの利用を開始。  
・娘から本人の生活への強い要望あり。  
・我々職員や他の利用者の支援を拒み、人間関係が断たれた。  
・娘のみとの生活により心のバランスが崩れた。  
この事例の後、認知症を発症している人にとって必要な環境について職員で話し合い取り組んだ事例を以下に示す。  
①チームワークや協力、役割分担が必要となる物づくりに取り組むことで、周囲を巻き込んだ環境形成が可能となる。  
②作った椅子や雑巾・座布団などは近くの学校をはじめ地域の中で使用してもらう。  
○竹本 梅子（仮名）、女性  
現病歴：アルツハイマー型認知症  
既往歴：誤嚥性肺炎  
認知症による被害妄想、徘徊、家族との言い争いあり。誤嚥性肺炎により、常食からミキサー食へ変更となった。  
③職員は、家族に自然と考え方が変容するよう竹本

氏のデイサービスでの過ごされ方を伝えた。  
④本人の強い希望により、ミキサー食から段階を経て、常食へと食事形態の改善を試みた。

### <活動の成果と評価>

①物づくりから価値の共有が生まれ、一体感が生じた。  
②作ったものを地域の中で使用してもらうことで、地域との関わりを実感し、物づくりへのモチベーションの維持へとつながった。  
③家族の意識も変わり、家族は竹本氏自身を受け入れた生活の支援を心掛けている。その結果、竹本氏の被害妄想の改善、徘徊の減少、さまざまな表情の出現、得意な三味線を弾く意欲が出てきた。  
④食事形態の改善をはじめ、本人の気持ちを大切にしたい取り組みが要介護度の維持・改善へとつながった。現在も認知症は進行しているが、他者とも関係を築きながら家族と共に地域で暮らせている。

### ■認知症を急激に進行させる要因

- ・周囲の環境からの隔離
- ・本人の意思が反映されないケア
- ・家族のみが満足を得る関わり

### ■認知症の進行を緩やかにする要因

- ・周囲の環境を巻き込んだケア
- ・本人の意思や生活を反映させた人間関係、環境の整備

家族や地域の中に受け入れられ、本人の意思や生活を見据えたケアを受けているデイサービス利用者は、認知症が進行しながらも表情豊かに、意欲を維持しながらの暮らしが継続出来ている。

### <今後の課題>

今後の課題は、本人や家族が認知症を受け入れ、地域の中で安心して暮らせる環境作りを支援していくことである。